

金と緑があるだろう 君の目に映るものでは 君が一等美しいだろう 湖の
底にはかの山の怒りが眠るだろう それは僕らの指が届くものではなく、手
首までが埋もれてしまうものだろう

君 顔をうずめなないで 僕らの果ては小鳥の爪先にも劣らぬほど美しいのだ
から 光って